

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.36

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和5年1月27日 文責:安生昌弘あんじょう あさひろ

◆ 算数コンテスト終わる



学級によっては、インフルエンザが流行っていますが、コロナ感染症陽性者と濃厚接触者が全校で0(ゼロ)になったこともあって、算数コンテストが無事終了しました。コンテストの問題は、1年間の学習内容がしっかり身に付いているかどうかを子どもが分かるように作問されています。うろ覚えでは正解できない問題が多いのです。中には「**あー、分かんない**」と叫んでいた子も居たようですが、これが勉強することには重要なことです。

まずは、子ども自身が自分の学力がどれ位なのかを知ることが大切です。これが分からないと、やる気も起きませんし、どれ位がんばらなければいけないのかも分かりません。そして、がんばった時の学力の伸びも分かりません。伸びが自覚できれば、さらにがんばる原動力になります。

つぎに、何を勉強したら良いのかを知ることが大切です。分かっている学習内容をなぞるような勉強ではなく、身に付いたと思い込んでいた学習内容を勉強し直すことに価値が生まれます。前にお伝えした漢字の学習と同じです。忘れてしまった学習内容だけ勉強することが学力の伸びを感じるにつながります。

人は誰でも出来ないことや苦しいことから逃げてしまいたくなります。でも、いつまでも逃げているわけにはいきません。学級担任も、算数コンテストの結果をもとに一人一人に応じた追加指導を3月まで行いますが、ご家庭でもお子さんを励ましたり、アドバイスをしてあげてください。算数の単元(学習内容のまとまり)ごとに1問ずつで算数コンテストの問題は作られています。



◆ 言葉かけのコツ



小学生は廊下をよく走ります。そのため、ぶつかってケガをする子も多い状況です。ある休み時間のことです。校長室にいますと、男の子の「ろうかは歩くよ」と走る友達に呼びかける声が聞こえてきました。思わず、私はニヤついてしまいました。日頃、校長室から廊下に向けて、私が発していた言葉だからです。

子どもに限らず、人は他人から注意を受ける時に否定語(「～するな」、「～しちゃだめ」等)は心に届きにくいそうです。そこで、私は肯定語(「～するよ」、「～しよう」)で言葉かけをしてきました。自分の行動を否定されるより、どうすることが望ましいか示された方が納得できるからだそうです。「ろうかは歩くよ」という言葉が、友達に注意できるほどに子どもの心に届くとは驚きました。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。